



伊勢税務推進協議会が伊勢税務署管内の中学生を対象に募集した第1回「税の標語」の審査結果が12月7日に発表され、約190点の応募の中から中村留菜さん（鏡浦中1年）の「税金は豊かな暮らしの 第一歩」という標語が金賞に選ばれました。

表彰状を手にした留菜さんは、「選ばれるとは思ってなかったのでうれしいです。これからも税について勉強したいと思います」と感想を語ってくれました。

税金は豊かな暮らしの第一歩



国崎小学校のこどもたちが、自分たちで育てたサツマイモで、国崎の名物「きんこ」作りに挑戦しました。

地元のおばあさんたちに教えてもらいながら、全校児童18人が協力し合って6月に苗植え、10月に芋掘り、11月の終わりには、皮をむいた芋を煮て天日に干す作業に取り組みました。

出来上がったきんこは、3・4年生の児童5人が12月12日に、しおさい市で販売しました。こどもたちの「国崎小で作ったきんこ、安くておいしいよ!」という元気な呼び声に多くの買い物客が訪れ、準備した51袋はすぐに売り切れしました。

手作り「きんこ」おいしいよ!

まちの話題 18号



「第9期鳥羽少年探偵団」では、奈良時代、志摩国から奈良の平城京に海産物が献上されていた史実について学習を重ねてきました。その中で、当時を再現しようと、団員13人が1月6日に奈良県庁を訪問し、自分たちで収穫して乾燥させたアラメをはじめ、ヒジキ、黒ノリ、ヒダコを、天平衣装姿で荒井知事に“献上”しました。使者の役目を果たした団員たちは、いにしへの鳥羽と奈良との結びつきを改めて実感していました。

奈良時代に思いをはせて



12月3日、保健福祉センターひだまりで「障がい者の日記念事業・ひだまりふれあい広場」が行われ、車椅子で取材活動が続ける、読売新聞中部支社の記者、館林千賀子さんの講演がありました。

障がいを持つかたや、ご家族、福祉団体など参加されたみなさんは、館林さんの話に真剣に耳を傾けていました。

館林さんからは、介助犬アトムとの生活や、車椅子ユーザーとして普段から考えていることを、実体験を通してお話いただき、地域と障がいを考えるきっかけとして良い1日になりました。

積極的に社会参加しましょう!